

授業科目名	生命科学Ⅱ	選択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	基本科目					
サブタイトル	遺伝子変異から環境・生態系の変移まで		担当者	小原 令子		
講義概要	<p>【概要】</p> <p>1) 染色体や遺伝子の異常に起因するさまざまな病気発症の例を概説する、2) 遺伝子解析、タンパク質解析に用いられてきた技術について解説すると共に、医学的治療に向けた最近の技術についても解説する、3) マクロなレベルにも目を向け、環境と生態系のかかわりについて解説する</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 遺伝子変異による病気発症のメカニズムや遺伝子工学技術について理解する、2) 環境や生態系についても興味を持ち、今現実に行っている問題について考える</p>					
履修条件	1. 遅刻、欠席をしないこと、2. 授業中の教室への出入り、私語を慎むこと、3. 生命科学Ⅰを履修している方が望ましい					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>文系のための生命科学（第2版）（羊土社）</p> <p>【参考書】</p> <p>細胞の分子生物学（ニュートン・プレス）、バイオの授業（羊土社）</p>					
授業回数	内容					
1	細胞の構造と遺伝子発現の概略					
2	染色体の異常					
3	遺伝子疾患					
4	細胞増殖(I)					
5	細胞増殖(II)					
6	ヒトゲノム解析からポストゲノム時代へ					
7	遺伝子発現解析、プロテオーム解析					
8	モデル生物					
9	1 遺伝子の単離からタンパク質機能解析まで					
10	医療に向けた生命工学－遺伝子治療					
11	医療に向けた生命工学－再生医療					
12	動物の行動					
13	環境と生態系(I)					
14	環境と生態系(II)					
15	生物進化、『種の起源』					
評価方法	出席状況、受講態度、試験などにより総合的に評価する。					
評価基準	10回以上の講義への出席があり、上記授業単元について最小限度の理解できた者については「C」、ほぼ理解できた者については「B」、さらに自分なりの見解を持ちそれを述べる事ができた者は「A」とする。ただし受講態度に問題がある場合は、この限りでない。10回未満の出席または上記授業単元の理解が不足している者は、その程度により「D」または「E」とする。					
その他	配布資料は各自でとり、保管しておくこと。欠席した場合は、次回に必ずとるようにすること。講義内容は、状況により変更する場合があります。また小テストを行う場合もあります。					